

## T a x & L a w      ーキャッシュ・フロー計算書２ー

前回に引き続きキャッシュ・フロー計算書について解説していきます。  
今回はキャッシュ・フロー計算書の内容についてご説明します。

### 1. 営業活動によるキャッシュ・フローとは

営業活動によるキャッシュ・フローとは、営業活動から生み出された資金でこの数値がプラスであることが基本です。ここでは、各項目が次の2つに分かれて表示されます。

- ① 本来の営業活動から生み出されたキャッシュ・フロー
- ② その他の活動から生み出されたキャッシュ・フロー

### 2. 「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「小計」の意味

「営業活動によるキャッシュ・フロー」の中には、「小計」欄が設けられています。「小計」欄は、おおむね営業損益計算の対象となった取引に係るキャッシュ・フローの合計額を表し「小計」欄以下の項目は、投資活動及び財務活動以外の「その他の活動」から生み出されたキャッシュ・フローを表します。

### 3. 投資活動によるキャッシュ・フローとは

投資活動によるキャッシュ・フローとは、設備投資や有価証券への投資などによって生み出されたキャッシュ・フローです。設備投資は企業が成長するための将来に向けた投資であるため、一般的にはマイナスです。表示される収入と支出の主な項目は次のとおりです。

- ① 収入：固定資産の売却収入、投資有価証券の売却収入、貸付金の回収など
- ② 支出：固定資産の購入支出、投資有価証券の購入支出、貸付による支出など

### 4. 財務活動によるキャッシュ・フローとは

財務活動によるキャッシュ・フローとは、金融機関からの資金調達や借入金などによって生み出されたキャッシュ・フローです。プラスであれば、借入金等によって資金が増えたことを表します。表示される収入と支出の主な項目は次のとおりです。

- ① 収入：増資、借入金の調達など
- ② 支出：借入金の返済額、配当金の支払い額など

### 4. 直接法と間接法

営業活動によるキャッシュ・フローの表示方法には、直接法と間接法があります。直説法は、主要な取引ごとにキャッシュ・フローを総額表示する方法で、理解しやすい計算書となる反面、取引ごとに基礎データを用意しなければならず、作成実務上手数がかかります。一方、間接法は貸借対照表や損益計算書等の決算資料を基礎に間接的にキャッシュ・フロー計算書を導き出すため作成が容易であると同時に純利益と営業活動に係るキャッシュ・フローとの関係が明示される点に長所があります。

次回以降は、関節包によるキャッシュ・フロー計算書から何が読み解けるか解説していきます。

参照：『実践！経営助言』TKC出版

執筆者 TKC近畿兵庫会 神戸支部 税理士 宮崎 敦史